

# 再建だより (第13号)

## 工事の途中経過

- ・本堂屋根工事
- ・書院、庫裡の屋根工事
- ・懸魚、葺股の原図
- ・ご寄付の途中経過



梅雨を控えて、屋根工事が急ピッチで進んでいます。

本体は鉄骨の建てものとはいえ、屋根の化粧垂木や妻側の合掌部分などは曲線を用いて、伝統的な寺院建築の工法を踏襲しているため、カンナをはじめとする宮大工さんの手作業です。そのため、時々、工事現場に薄いカンナ屑がひらひら舞うこともあります。

手作業が多く、なかなか進まなかったのですが、ようやく屋根の下地が出来上がり、徐々に瓦が葺かれてお寺らしさが出てまいりました。

左の屋根は、庫裡の正面ですが、軒先の丸瓦には、前号で紹介した〇に福の字のオリジナル瓦が並んでいます。妻壁のひさしに葺かれた棧瓦の先端にも、小さい〇福が一直線に並んでいます。

### 目次：

屋根工事が進んでいます	2
「かわら」よもやま話	2
寺院建築の装飾	4
仏像・仏具の発注状況	6
6月の工事予定	7
ご寄付の途中経過	7

## 屋根工事が進んでいます。

本堂の屋根工事が進んでいます。

二重の化粧垂木がきれいに並んでいます。

工事現場を見た人が、一様に「大きい本堂になりましたね。」とおっしゃいますが、本堂の間取り自体は以前の本堂とあまり変わっていないので、大

きく見えるのは、二重の化粧垂木の施した立派な屋根のせいだと思います。

また、以前は、道路から下がったところに本堂が建っていましたが、基礎を道路の高さに合わせるために高くしたので、より大きく感じるのかもしれませんが。



## 「かわら」よもやま話

工事現場を見ては、今日はどれくらい瓦が葺けるかを気にしていると、子どものころに遊んだ瓦工場が思い出されます。

表のように、日本を代表する三大瓦がありますが、地域地域で瓦は作られていたようで、私の生まれた町にも瓦工場が二か所ありました。登り窯があったりして、かくれんぼや缶けりの格好の遊び場でした。なにより知り合いのおばちゃんが働いていて、瓦の材料の粘土を分けてくれるのが楽しみでした。

歩き遍路で愛媛に行ったとき、海沿いの菊間町を電車で

通ったら、駅舎の屋根も駅前の公共施設の屋根も見事なぶし瓦で葺かれていて、お寺の本堂もこんなぶし瓦だったらなんて思ったのが期せずして現実になりつつあります。

また、市原の仮住まいに行く途中の道には、「瓦窯通り」と名付けられた道があります。市原にある上総国分寺と国分尼寺の屋根瓦を焼いた窯跡にちなんでつけられた道の名前だそうです。

こうして見ると、瓦は私たちに身近な建築資材なのだとなつてかされるのでした。

### 日本三大瓦産地

三州瓦 愛知県

石州瓦 島根県石見地方

淡路瓦 淡路島

## 葺は魂の通る路 心して葺くべし

社寺建築で特徴的なのが「本瓦葺」と言われる瓦の葺き方です。飛鳥時代に中国や朝鮮から寺院建築の技術と共に瓦が伝えられたと言われますが、その瓦の葺き方が、平瓦と丸瓦を組み合わせたものでした。それまでの日本の屋根といえば、檜皮葺(ひわだぶき)や茅葺(かやぶき)でしたが、陶器製の瓦は耐水性・耐火性に優れていたため日本には適しているのだそうです。

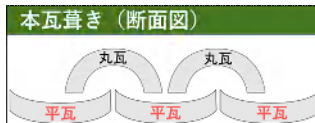
ただし、その葺き方は「土葺き」という粘土で瓦を固定する方法だったので、屋根が重くなること、粘土の劣化のためにメンテナンスが不可欠でした。

しかしながら、関東大震災以

後、粘土だけで固定する土葺きは瓦が落ちるという被害を招いたことで見直されることとなり、屋根の下地に棧を打ち付けて、これに瓦のツメをひっかけ、さらに釘などで固定するようになり安全性は向上しました。

今回の圓福寺の屋根工事では、平瓦と丸瓦が一体になった特殊な瓦が使用されることになり、屋根の軽量化と安全性が図られ、同時に伝統的な寺院建築の美しい葺を見ることできると思います。

タイトルの「葺は魂の通る路・・・」は、瓦葺き職人さんに伝わる言葉のようです。



庫裡と同時に、本堂の本葺き瓦の工事もはじまりました。

## 寺院建築の装飾

寺社建築ならではの彫り物に、切妻に取り付けられる「懸魚」（げぎょ）と、桁をうけるところの「墓股」（かえるまた）があります。

その「懸魚」と「墓股」の原図を、設計士の菅野さんが書いてくれました。

専門の彫師さんに彫ってもらって取り付けるのだそうです。

「懸魚」は本堂の切妻部分に取り付けられますが、なにしろ敷地いっぱい建物建つために、正面からは見えず、墓地の方からとか、幼稚園の園庭からとかのほうがよく見えるようになります。

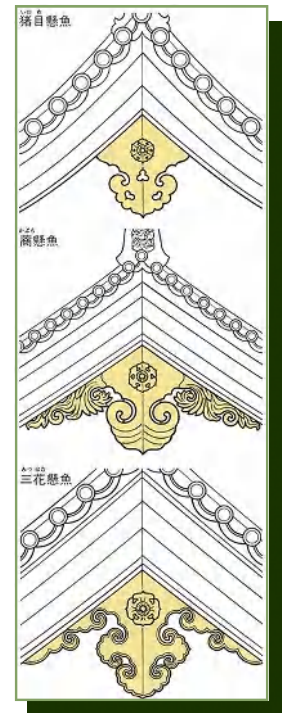
「墓股」は庫裏の妻壁に取り付けられますから、道路からよ

く見えます。禅寺の庫裏のように急こう配の大きな屋根があって、その妻壁にいくつもの墓股が見えるような意匠はできませんが、そのイメージを醸し出せたらと思って、取り付けてもらうことにしました。

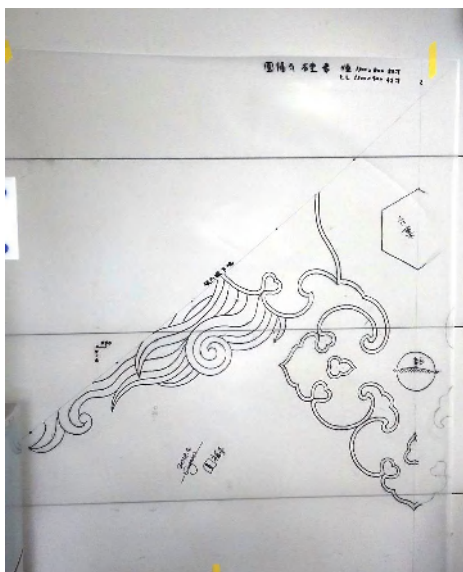
これ以外の彫り物としては、本堂西側の「火頭窓」があります。

幅一間半の火頭窓が四か所並ぶ様子は、いかにも禅寺という雰囲気になると思います。

これも墓地にいく園路から見上げるか、墓地から眺めるのがビューポイントかと思います。



設計士の菅野さんが書いた懸魚（左）と墓股（右）の原図



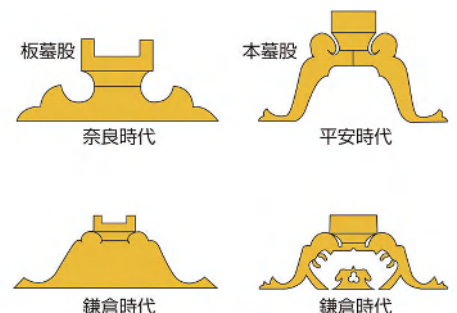
### □□□ 懸魚（げぎょ）

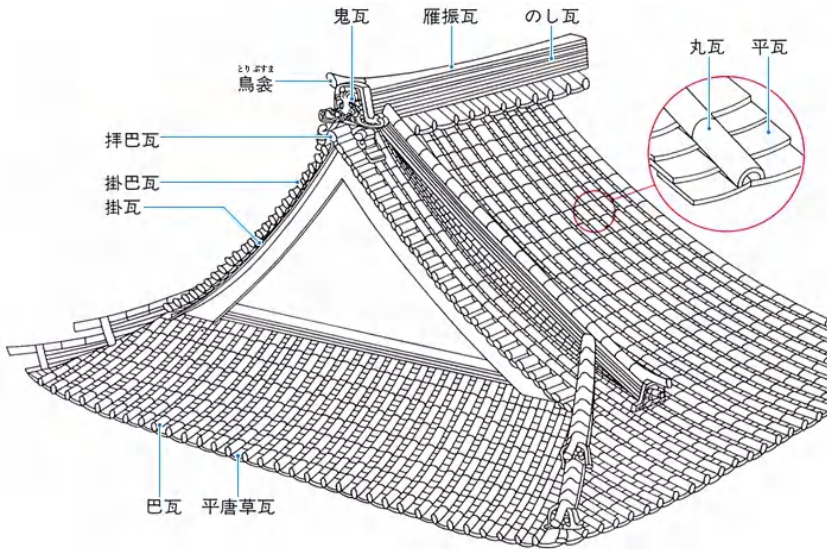
建築装飾の一つ。中国や日本の建築で、破風（はふ）の下部内側またはその左右に六葉といわれる金属製や木製の栓で取付け、棟木や桁の先を隠すための飾り板。形により梅鉢懸魚、猪目（いのめ）懸魚、かぶら懸魚、三花懸魚などの種類がある。当初魚をつるしたような形であったのでこの名がある。



### □□□ 墓股（かえるまた）

和様建築で、梁や頭貫（かしらぬぎ）上にあって上の荷重を支える材。カエルが足を広げた形に似ているところからこの名がある。はじめは、虹梁上で上方の荷重を受ける構造材として1枚の厚い板から造られていたが、平安時代後期に装飾材として組物（くみもの）（建築組物）と組物の中間におく厚みの薄い輪郭だけのものが現れ、以後これが大いに発達する。左甚五郎による日光東照宮の「眠り猫」は有名です。





【お墓側から見た工事途中の様子。】  
屋根のそり具合や本堂西側の長い廊下が創  
造できます。



## □□□ 火頭窓 (かとうまど)

元は、中国から伝来したもので、禅宗様の窓として使われていたが、安土桃山時代頃にそのデザイン性から、禅宗以外の仏教寺院でもまた、仏教建築ではない神社や天守などの城郭建築、書院造の邸宅に使われた例もあります。枡の上部を火炎形(火灯曲線)や花形(花頭曲線)にしたことが名前の由来です。火灯窓、花頭窓という言い方もあるようです。

圓福寺本堂西側の廊下に面して、この火頭窓をつけることにしました。上のお墓側から見た現場写真の中で、壁面に火頭窓が並びます。右の写真は、そのイメージのもとにさせていただいた、京都東福寺禅堂です。



## 仏像・仏具の発注状況

伽藍工事と同時に、仏像・仏具も用意しなければなりません。中には、注文してから機織りする西陣の生地で作るものや染物などもあったりしますので、見積もりを取り寄せては精

査検討して発注を進めています。その途中経過をお知らせいたします。以前にお届けした「禅寺のしつらい」と共にご覧いただければわかりやすいかと思ひます。

品名		数量	見積額	大きさ等	詳細	
仏像	釈迦如来坐像	1体	2,200,000	身丈1.5尺、総丈4.8尺	米ヒバ白木玉眼入り、截金風金泥入り、中国製	
	達磨大師像	1体	1,300,000	身丈1.8尺、	玉眼入り、黒茶塗仕上げ	
	達磨大師台座	1台		巾2.4尺、奥行2尺、高さ1.95尺	樺製白木仕上げ	
	釈迦苦行像	1体	300,000	総丈43cm	唐金製	
	韋駄天	1体	310,000	ヒバ材、身丈1尺3寸		
	烏枢沙摩明王像	1体	160,000	檜材、身丈6寸		
	跋陀婆羅菩薩像	1体	80,000	檜材、身丈6寸		
掛け軸	十六善神	1巻	400,000		江戸中期の作	
	涅槃図	1本	1,500,000	幅6尺	江戸中期の作	
仏具	須弥壇	壇引き	3間半	未定		
		三宝	6台	72,000	木製8寸、朱	
	内陣	前机	1台	2,000,000	樺すり漆、巾7尺	
		中央香台	1台		樺すり漆、高さ2.5尺	
		常花	1対	600,000	総金箔、3尺13本	
		水引・戸張	3流れ	4,543,000	西陣織本金襴錦地	唐草鳳凰紋。華曼を含む。
		三角打敷	1枚	0		法衣屋さんが切れ端を縫い合わせて作ってくれる。
		前机五具足	1組	1,090,000	妙心型8寸、唐金梨地仕上げ	
	室中	曲録	1台	0		東京千駄木の養源寺さんが寄付してくれた。
		樺製見台	1台	130,000	樺すり漆、1尺8寸	
		樺製経机	1台	280,000	樺すり漆	経馨卓
		大磬	1基	0		東京千駄木の養源寺さんが寄付してくれた。
		大玉鱗	1基	0		東京千駄木の養源寺さんが寄付してくれた。
		引金	1本	0		既得
		鏡鈆	1鉢	0		既得
		拂子	1本	0		澤野法衣店さんの寄付。
	その他本堂	施餓鬼棚	1台	900,000	幅5尺	楔式組立仕様
		施餓鬼用中卓	2台		高さ75cmと90cmの2台	
		施餓鬼桶	1組		7寸	
		施餓鬼幡	1式			七如来、四天王、招き旗
四十九院幡		1式			「大塔」製	
法鼓		1基	1,650,000	本樺製、2尺		
法鼓台		1台	150,000	樺製すり漆、	二本脚立打ち用	
木版		1基	0		既得、以前使用していたもの。	
玄関幕		1張	138,900	化繊縮緬幕、紫地に白紋	文字は別途、1文字1170	
山門幕		1張	63,360	天竺木綿地、白地に黒紋	文字は別途、1文字1170	
寺号額			494,500	樺一枚板、旧本堂に掲げていた。	修理依頼	
五色幕		11間	未定			
本堂用椅子	20脚	183,600		放光彼岸特価		
発注済み分の合計額			18,545,360			

## 6月の工事予定表

工期は、当初の予定より2か月延びて、10月末に変更されました。

30年 6月度		工事名 宗教法人 圓福寺 本堂・書院・庫裡 新築工事		見積り		総理手続		製図代理人		申請書		No.																						
月 間 工 務 表		請負者名 松蔭建設株式会社		作成日 平成30年6月22日		障害野合図設計		茶谷憲一		茶谷憲一																								
施工部位	日	6 月																														工 期	自 平成29年 7月 1日	至 平成30年 8月 31日
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
曜日	曜 日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土			
仮設工事																																		
木工事 書院					(書院)							(書院)																						
木工事 本堂					(本堂)							(本堂)																						
屋根瓦工事					(本堂)							(本堂)																						
屋根板金工事					(本堂)							(本堂)																						
外壁工事					サイディング							サイディング																						
土留工事																																		
内装工事					(書院)							(書院)																						

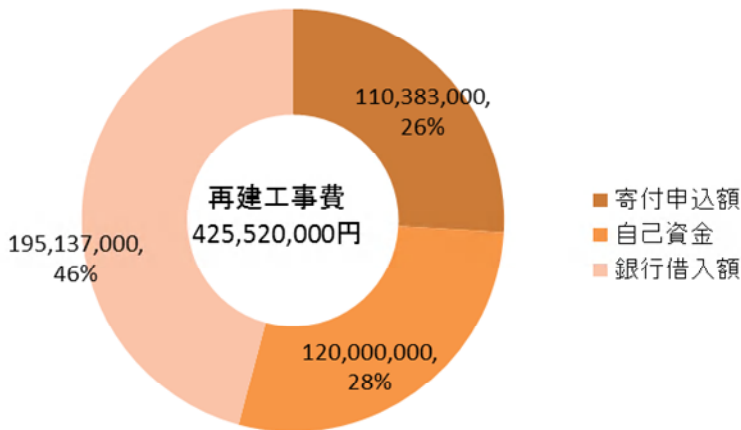
※ 幼稚園送迎バス  
8~10時、14~16時

終了予定

## ご寄付の途中経過

### 資金計画進捗状況

平成30年5月31日現在



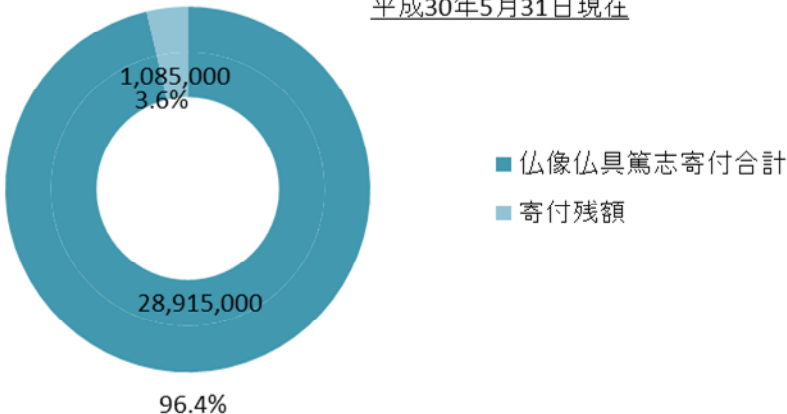
再建工事費の寄付申込額も、工事費の四分の一以上となり、檀信徒の皆さんのおこころざしに心より感謝申し上げます。

グラフに表われないデータとして、寄付申込額は目標額の127%になっております。このうち、一括でのご寄付の方が355名、分割の方が41名、合計396名の方がご寄付を申し込まれております。ご寄付の目標額に達したとはいえ、銀行借入がなくなるわけではありませんので、いましばらくはご寄付のお申し込みを受け付けております。うっかり忘れていた方、それじゃもう少し寄付しようかなどと思われる方は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

仏像仏具のご寄付の方も、一回だけでなく複数回ご寄付してくださる方がいらしたりして、間もなく目標額になりそうです。重ねて心よりお礼申し上げます。

### 仏像仏具篤志寄付途中経過

平成30年5月31日現在





工事現場から拾ってきた木の切れっ端も、子どもたちの大切なおもちゃです。

工事現場ではなく、幼稚園の年長組の部屋からも、なにやらトントンとかなづちでたたくような音が聞こえてきました。さてはおもちゃの積み木で、床でもたたいているのかなとのぞいてみると、本当になづちを使って材木を釘で止めようとしていました。

よく見ると、その材木は工事現場で出てきたヒノキやヒバ、杉の切れっ端。工事現場のゴミ捨て場から拾ってきたようです。【上の写真】宮大工さんの仕事に刺激されたのかどうか、切れっ端だったら積み木にして遊ぶだろうと思ったら大間違い、この板と太い木を組み合わせてベンチを作りたいとか、本箱を作るんだとか、小さなかなづちを持って勇ましいことをいいます。見ていると、使ったことのないかなづちで一生懸命釘を打とうとするのですが、釘は一向に打ち込まれていきません。見かねてトントントンと調子よく打ち付けてやると、「すっこ〜い。」と歓声に包まれました。お寺の工事のおかげで、園長先生の株が上がりました。

それにしても、無垢の切れっ端をふんだんに使って遊べるなんて、お寺の建築現場ならではの・・・、現代っ子には貴重な体験になっているようです。

### 臨済宗妙心寺派 圓福寺

千葉県稲毛区穴川町375

電話：043 (251) 9181

FAX: 043 (251) 9549

電子メール: oshou@chiba-enpukuji.com